

周遊型旅行者の旅行形態に関する研究

～特に北海道でバイクツーリングをしている旅行者に注目して～

○永井信 原田尚幸 松永敬子 (大阪体育大学大学院) 原田宗彦 (大阪体育大学)

旅行 周遊型 旅行形態 バイクツーリング

I 序論

総理府の「余暇と旅行に関する世論調査」(平成3年)によると、2週間連続の長期休暇が実現した場合には何をしたいかという問いに対して、「一泊以上の宿泊旅行をしたい」と答えた者が48.6%と最も多く、宿泊をとまなう旅行に対する潜在的なニーズが大きいことを示している。今後、余暇時間の増大やレジャー活動に対する関心の高まりにともなって、旅行者数はさらに増加するものと思われる。また、観光旅行の形態には滞在型や日帰り型、周遊型など様々な形態が含まれるが、最近のオートキャンプへの関心の高まりや参加者の増大にみられるように、自家用車や自動二輪車を旅行の主な交通手段とした「周遊型」の旅行が注目されている。しかし、このような周遊型旅行の実態や形態についてはほとんど明らかにされていないのが現状である。本研究は、北海道で自動二輪車による旅行(バイクツーリング)を行う周遊型の旅行者に焦点を当て、旅行者の旅行形態を明らかにすることによって質の高い旅行経験を提供するための基礎的資料を得ることを目的とする。

II 研究方法

調査対象は、北海道虻田郡倶知安町のライダーハウスAと北海道常呂郡佐呂間町のライダーハウスBを利用したバイクツーリングを行う旅行者149名、及び北海道苫小牧市の苫小牧港で無作為に選んだバイクツーリングを行う旅行者150名である。調査期間は、平成4年8月15日から10月1日までの約一ヶ月半で、調査方法は、留置法(手渡し)による質問紙調査を用いた。

III 結果及び考察

1. サンプル属性

表1によれば、サンプル全体の男女の比率は男性が86.2%、女性が13.8%と男性の旅行者が多く、また、平均年齢は25.8歳であった。職業に関しては、学生が全体の33.7%を占めており、次いで事務・技術職が33.3%、技能・販売職が11.1%、無職が10.8%の順となっている。旅行者に学生が多いのは、体力の必要なバイクツーリングという旅行形態が一つの原因であると思われる。

2. 宿泊数

宿泊日数に関しては、1泊から5泊までの合計が8.3%であるのに対し、1週間以上2週間未満(6泊から12泊)の者は51.2%、2週間以上3週間未満(13泊から19泊)が21.6%、そして3週間以上(20泊以上)の者は18.8%であった。このことから北海道でバイクツーリングを行う旅行者は1週間以上の比較的長期間の旅行を行う者の多いことがわかる。

3. 宿泊施設

主に利用する宿泊施設としては民宿が45.6%、キャンプ場が39.6%、ライダーハウスが35.2%であった。また、その宿泊施設を利用する理由で「経済的な理由」をあげた者が60.0%と高いことから、北海道でバイクツーリングを行う旅行者は比較的安価な施設

を主に利用することがわかる。

4. 旅行目的について

同伴者数別でみた旅行目的について、一人で旅行している者の目的として最も多かったのは気晴らし、見知らぬ人との出会いや交流で両者ともに55.1%、次いで休養が43.7%であった。二人以上の旅行者では気晴らしが40.2%、見知らぬ人との出会いや交流が32.7%、趣味や教養を深めるが30.8%の順となっており、一人で旅行している者と二人以上の者では違いがみられた。

IV まとめ

北海道でバイクツーリングを行う旅行者は、一般の旅行者に比べ長期間の旅行を行い、その期間中に主に宿泊する施設としてはホテルや旅館などよりも民宿やキャンプ場、ライダーハウスのような安価な宿泊施設を利用している。また、一人で旅行を行っている者と二人以上の旅行者との間ではその旅行目的に相違がみられた。この結果から、例えば旅行者が目的地を移動しながら長期の旅行を行える低料金宿泊施設のチェーン化や、目的別の利用が可能な施設の充実といった旅行環境の整備が望まれる。

発表当日は、その他の結果についても報告する。

表1. 回答者のデモグラフィックス

項目	カテゴリー	%. (n=299)
性別	男性	86.2
	女性	13.8
	計	100.0
年齢構成	16~19歳	4.7
	20~29歳	77.5
	30~39歳	14.1
	40~49歳	1.3
	50~59歳	2.0
	60~69歳	0.3
	計	100.0
職業	学生	33.7
	事務・技術職	33.3
	技能・販売職	11.1
	無職	10.8
	専門職	5.4
	自家営業	3.7
	管理職	0.3
	主婦	0.3
	農林・水産・漁業	0.0
	その他	1.3
	計	100.0